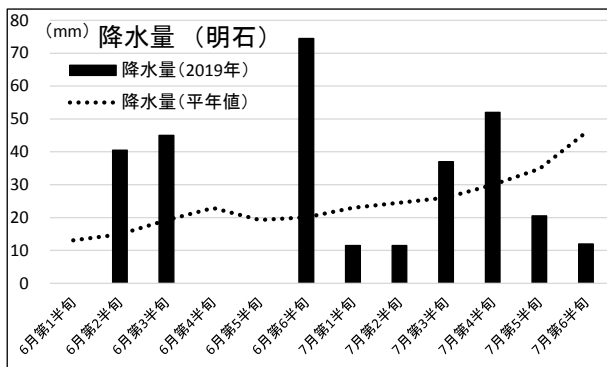
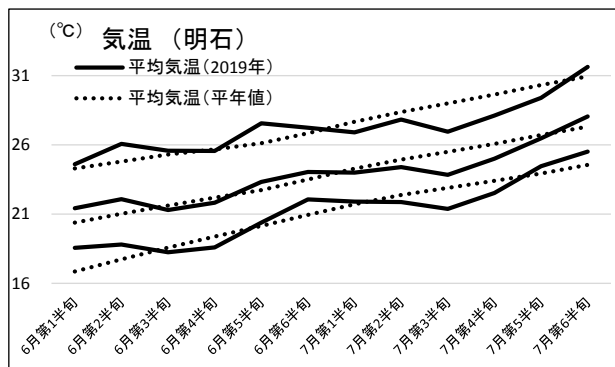


令和元年度 東播磨地域稲作気象台情報 第2号

発行：令和元年8月2日
東播磨農業改良普及事業協議会

1. 気象状況 (気象庁データ [明石]：6月～7月)

今年の梅雨明けは7月24日ごろで、平年よりも3日遅く、昨年よりも15日遅くなりました。気温は、7月に入り梅雨明けまで、平年よりもやや低く経過しました。梅雨入り(6月26日)から梅雨明けまでの降水量は、平年よりも4割強多くなりました。



2. 生育状況 (県立農林水産技術総合センター [加西] の気象感応調査結果：7月25日現在)

品種	草丈	茎数	葉数
キヌヒカリ	83cm (平年比100)	397本/m ² (平年比110)	12.3枚 (平年差-0.4)
ヒノヒカリ	62cm (平年比100)	440本/m ² (平年比94)	12.2枚 (平年差+0.1)

3. 病害虫発生程度 (東播磨管内19定点ほ場での予察調査結果：8月1日実施)

	本田払い落とし					本田すくい取り				
	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ツマグロヨコバイ	フタオビコヤガ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ツマグロヨコバイ	カメムシ類
明石播磨	少	中	無	少	無	無	少	無	無	少
稲美	少	少	無	少	無	少	無	無	少	少※
加古川北部	少	少	無	少	無	中	少	無	少	少
高砂・加古川南部	少	少	無	無	少	少	少	無	少	少※

	病害調査						虫害調査 (見取り)				
	葉いもち病	穂いもち病	紋枯病	縞葉枯病	ばか苗病	もみ枯細菌病	稲こうじ病	ニカメイガ	イネミスソウムシ	イネツトムシ	コブノメイガ
明石播磨	無	/	無	無	無	/	/	無	/	無	無
稲美	少	/	無	無	無	/	/	無	/	無	無
加古川北部	無	/	無	無	無	/	/	無	/	無	無
高砂・加古川南部	無	/	無	無	無	/	/	無	/	無	無

※発生・発病程度が「甚」でも時期によっては問題ありません。要防除密度の場合は太文字で※印を付けています。(例： **甚**※)

今回の調査で害虫は、ヒメトビウンカ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイに加え、高砂の定点ではフタオビコヤガやイネツトムシも確認されましたが、いずれも発生密度は低い状況です。しかし、19カ所中7つの定点において斑点米カメムシ類の発生が確認され、その内6カ所は**要防除密度**となっています。

病害では、稲美町の定点で、軽度の葉いもちの発生が確認されました。また、発病程度はごく軽微ですが、一部のほ場では紋枯病の病斑も確認されています。

4. 今後の栽培管理について

(1) 病害虫防除



クモヘリカメムシ

*いもち病

葉色の濃い所や日当りの悪い所は、「葉いもち」の進展による「穂いもち」の発生が懸念されます。普通期の水稻では、出穂前にいもち病が目立つことがあるので、穂肥を施用する前に発生していないかよく観察しましょう。発生している場合は、穂肥の減量や無施肥等の対策を実施し、多発している場合は、出穂前に治療効果の高い薬剤で防除しましょう。



アカスジカスミカメ

*紋枯病

今回の調査では、第4葉鞘以下に発病が見られた定点がありました。気温の高い日が続くと、紋枯病が拡がりやすくなります。前年に多発した圃場や過繁茂のほ場は特に注意しましょう。

*縞葉枯病・ヒメトビウンカ

近年、ヒメトビウンカが媒介する縞葉枯病が問題となっています。「出すくみ症状」や「ゆうれい症状」の株を見つけたら、株ごと抜き取りほ場の外に持ち出して処分しましょう。縞葉枯病を確認したほ場は観察を継続し、出穂前に防除を実施するなどヒメトビウンカの密度を低く抑えましょう。

*ウンカ・ヨコバイ類

トビイロウンカの発生は確認されませんでした。梅雨前線と共に飛来している可能性があります。成熟期の遅い品種では、トビイロウンカの発生・増殖が収量や品質に大きく影響するので、出穂前の基幹防除は必ず実施しましょう。

*斑点米カメムシ類

主に畔草での発生が確認され、多くの定点で要防除密度となっています。斑点米の原因となるので、出穂前の畦畔等の草刈りや出穂後の薬剤防除を実施しましょう。雑草が繁茂している場所で繁殖するので、休耕田や池の堤、法面等の草を刈り、生息地を減らしましょう。ただし、出穂期の草刈りは、水田に虫を追い込むことになるので、出穂の2週間前までに終えましょう。気温の高い日が続くと多発するので、穂揃期頃に防除を実施しましょう。



オトゲシラホシカメムシ



ホソハリカメムシ



アカヒゲホソドリカスミカメ

◎農薬の使用にあたっては、ラベル記載の適正使用基準を遵守し、隣接作物等へのドリフト防止に努めましょう。

(2) 水管理・施肥管理

<キヌヒカリ・コシヒカリ・あきたこまち>

出穂期を迎えています。出穂時は湛水状態にし、出穂後は間断灌水（田面に貯めた水がなくなったら水を入れるを繰り返す）に切り替え、根を健全に保ちましょう。

<ヒノヒカリ>

中干し後は間断灌水で、発生した根を湛水に馴染らし、丈夫で活力のある根にしましょう。

穂肥は、出穂期予測及び葉色・葉鞘のヨード反応などの生育診断に基づき、適期適量を心掛けましょう。（出穂20日前 - 幼穂長2mm程度）

*水稻の出穂期・成熟期を予測するには・・・

下記URLもしくは右のQRコードから「水稻生育予測システム」にアクセスすると、主な水稻品種の出穂期・成熟期予測を見ることができます。

<http://www.finds.jp/ricediag/dtsp/index.html>



◎熱中症や事故防止のため、草刈りや施肥等の農作業は日中の気温の高い時間帯を避け、こまめな水分補給・休憩を取りながら無理なく実施しましょう。また、1人で作業をする時は家族等へ行先や帰宅時間を告げておくとともに、万が一に備え携帯電話を身に着けましょう。

※兵庫県農業気象技術情報サイトへのアクセス方法

兵庫県ホームページトップ画面より、「食・農林水産」⇒「農業」⇒「農産物」⇒「農業気象技術情報」と進んでください。もしくは、「農業気象技術情報」で検索して下さい。（http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_00000097.html）

◎次回、第3回稲作気象台情報の発表は9月上旬です。（9月5日（木）調査予定）

発行	東播磨農業改良普及事業協議会 (構成員：明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町 JAあかし、JA兵庫南、JA加古川南 加古川農業改良普及センター)
調査協力	NOSAI東播磨、NOSAI兵庫、JA全農兵庫
お問合せ先	加古川農業改良普及センター 地域課 (079) 421-9354 JAあかし 本店 経済課 (078) 934-5800